**サービス管理責任者等基礎研修**

開催日時：2022年9月15日（木）13：10～16：30

　　　　　　　　 9月16日（金）12：45～15：15

場所：Zoomでの参加

参加者：世話人 丸山

研修のねらい：人材育成サービス（支援）の質の向上

　　　　　　　　SVによるサービス提供職員の気づき（ハッとする、ピンとくる）と自己の業務の検証（批判ではなく）に繋がるきっかけづくりを行う。仕事への感性を高める事に繋げる。

基礎研修において：今回の研修では、サービス管理責任者の１歩目となる研修ともなり得ましたが、利用者への支援を日頃行うなかで、改めて肝に銘じる事があると感じ、学ぶ事がいくつもありました。２日間の研修のなかで、大切だと感じた事をピックアップしてレポートとさせていただこうと思います。

1，基礎研修においての重要な視点以下2点

①**利用者の意思決定支援の配慮も意識する中で、本人を中心とした支援を常に意識して考えるようにする**。

②**サービス提供プロセスに基づいた実践を常に意識して考えるようにする**。

**（1）個別支援計画の作成が可能となる**

　　基礎研修は、**支援のプロセスの理解**（**アセスメント、個別支援計画の作成、****相談支援専門員との連携、多職種連携**）を学び、実践研修までに個別支援計画の原案作成可能となるための研修です。実践研修までの3年の間に、実務経験を積みながら学んでいきます。

**個別支援計画作成のポイント**

・**サービス等利用計画を踏まえた**個別支援計画を作成。

・**本人の希望や意向に基づいたニーズ**がきちんと反映されているか？**支援者の押し付けになっていないか**？

・解決すべき課題を根拠に、**本人がポジティブに取り組める支援目標**をたてる。

・**本人を中心とした計画**を、本人と**一緒に作っていく過程こそが大切**。

→自分の支援計画を**ラフスケッチする力**をつける

→**自分の人生は自分が切り開く**という視点

・**本人に分かり易い言葉**で書く（表現も含め、必要な配慮をする）

・支援内容を抽象的な言葉でごまかさない（安定した生活、楽しい暮らし、薬がちゃんと飲めるように…等）

・具体的な目標、期間を設定する数量化できるように努める。

→定期的に評価を行う

・**小さなステップを踏むような計画**になっているか。

**（2）アセスメント**

　　利用者の支援に必要な情報を、利用者本人や家族と面接、関係者からの聴き取りなどを通して収集し、利用者の思いや課題に向き合う力、取り巻く環境の持つ力を見立てるものです。アセスメントは何度も繰り返されます。最初のアセスメント結果にとらわれず、利用者の行動や態度の背景を考えながら柔軟に見立てをやり直すことが重要です。

①アセスメントでの工夫

・アセスメントではできる事と、できない事をチェックしているうちに本人の全体像がぼやけてしまう事があります。

→**１００文字程度で要約**してみる事も方法のひとつです。

（参考）**ぼくは入院して１０年目。日常家事はうまくできないけど、退所後はお金を自由に使ったり、人を気にせず自分のペースで生活したいので、アパートで一人暮らししたい。でも保証人もいないし・・。それにどんな一人暮らしになるのかなぁ。（１０９字・精神障害・統合失調症のある人）**

・本人の**意向に基づくニーズ**を、一つひとつ整理しながらも、支援に必要な課題を全体的に整理する

・本人の**能力（ストレングス）、家族、インフォーマルな支援等の状況等は、利用者の状況、環境の状況に整理する**。

・支援者の気になることや推測できる事には、**本人の強さ、可能性、揺れ具合も含めた見立てとして整理する**。

・支援者の見立ての上で、**本人の希望に即した支援**を行うためには、もう一度、本人の全体像を確認する。

・本人の全体像を踏まえて、**本人の希望に即した支援を行う為に解決すべき課題はどのようなものがあるかを整理する**。

②課題整理の目的

　1，本人の希望や意向を起点とし、**本人のニーズを確認**する。

　2，**本人のニーズを満たすため**、支援上の課題を整理する。

　3，「課題」は「なおすこと」「ダメなところ」など、ネガティブに捉えるのではなく、「**取り組むこと」「チャレンジする事」などポジティブに捉える**。

③課題整理のポイント

　1，**利用者の希望や意向**に沿っているか。

　2、人生の一部分としてとらえているか。

　3、全体像を捉えているか。

　4，**多面的に捉えているか**。

　5，**複数の立場、職種の意見が反映されているか**。

　6、課題は検証可能か。

アセスメントでは、本人に直接会って、想いを確認してから、ニーズを整理します、ニーズの整理は主訴からの背景を探り、更に背景から考えられる様々な**可能性**（**本人や環境の強み**）を描くという作業を利用者本人や家族、他の支援者と共に行うものです。

（3）個別支援計画の作成

①個別支援計画は、サービス等利用計画を踏まえて作成します。**本人の希望やニーズがきちんと反映されているか**、**支援者の押し付けになっていないか**。**本人を中心とした計画**を、**本人がポジティブに取り組めるよう、一緒に作っていく過程が大切**です。抽象的な表現を使わず、本人が分かり易いような言葉で書き、表現するなど必要な配慮をします。具体的な目標、期間を設定し、定期的に評価を行います。小さなステップを踏むような計画になっている事もポイントです。

　②利用者・家族への説明のポイント3点

　　総合的な支援方針を確認する事で、サービス等利用計画を踏まえて個別支援計画を作成したことを本人に分かり易い言葉で説明します。

1，**本人の希望や意向がきちんと反映され、どのような過程を経て、何を根拠として支援内容を組み立てたかについて**

2，**目標をわかりやすく説明することで、何のための支援かを明確にする**。

3，**支援内容を抽象的な言葉ではなく、具体的な場面を想定して説明する**。

　誰の為の計画なのかを踏まえ、計画を見ると**本人の意思形成の跡がわかるくらい、本人が見て、自分の想いを感じられるものにする必要があります**。

**（4）相談支援専門員との連携、多職種連携**

　障害者総合支援法上の介護給付や訓練等給付や、児童福祉法上の障害児通所支援といった必要な公的サービスを組み合わせた支援を行う場合、**相談支援専門員は、事業ごとのサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、サービス提供責任者との連携が必須**となります。

①サービス担当者会議の開催

　相談者本人の支援に関わる関係者全員を対象に、本人情報や支援方針、支援目標を共有し、必要な支援内容の**役割分担を行って**、各事業所の個別支援計画に反映させるための会議です。多職種連携やチームアプローチは**協力関係や支援の在り方であり、関係者が一堂を会して意見を交換したり、作成した計画を共有することで初めて支援チームに参加している事が実感できます。**

②サービス等利用計画等と個別支援計画の連携

　サービス等利用計画が、関係者に配布されると、それに基づいて各支援事業所の個別支援計画の作成・更新がなされます。特に、「総合的な援助の方針」は、個別支援計画にも記載され、**相談者本人の希望する生活の実現に向けた一貫した方針のもと、事業所ごとの支援内容が検討される事が重要**です。

　また、個別支援計画における**モニタリング結果が、サービス担当者会議において支援チーム内で共有され、サービス等利用計画等のモニタリングにもつながると、相談支援とサービス管理責任者等の連携のサイクルが実体化され、支援の効果も高まる**と言えます。

**2，相談支援における記録の意義**

（**1）記録の目的7点**

①**相談過程の点検（振り返り）**

　自分の発言や、利用者、他機関とのやりとりを点検する同時に、自己の支援を内省するための振り返りとなります。例えば、自身の発言が虐待に繋がっていないかなどの発見につながるのではないかと考えました。

②**利用者や関係者との情報共有**

　利用者との相互理解や協働しているチームで、利用者の経過や現況を確認するために必要になります。

③**支援方針の決定の根拠（想いやニーズの可視化）**

　利用者の支援会議などで活用され、援助の方法やサービスの内容を決める為の根拠となります。

④**相談過程の証明（苦情対応）**

　苦情の対応や問い合わせに応ずるため、これまでの相談過程が、いつどのような形で行われたかを残しておく必要があります。

⑤**助言・指導の資料（スーパービジョン・コンサルテーション）**

　事例検討会などのスーパービジョンを受ける際に提供する資料となります。

⑥**相談体制向上のための資料（調査、研究）**

　支援の流れや対応方法を積み重ね、調査研究の資料とすることで相談体制の客観化とレベルアップにつながります。

⑦**政策的な提言のための根拠（ソーシャルワークアクション）**

　利用者を取り巻く環境や制度の改善のための根拠として、利用される可能性があります。

**（2）よい記録を作成するために**

　　簡潔で、ポイントを押さえた記録とするためには、

①日付や時刻、場所、回数、時間数、身長や体重など、できる限り正確な数字で表現する。

②客観性を保つため、計画な事実を書き、**主観的な想像はいれない。**

③論連を明確にするため、箇条書きにしたり、見出しをつけて論点別に整理する。

④事実関係を明らかにするために、**誰が、いつ、何のために、何をどのようにしたかという関係性を明確に書く**。

　以上の点を留意します。

**3，研修を受けての感想**

　人を支援するという事には責任が伴う事を、改めて学ぶ事ができた研修であり、第三者にわかりやすく伝える事の難しさを知りました。常日頃から、文章に関わる仕事でありますが、研修のなかでも「わかりやすい言葉（文章）で」と講師の方がおっしゃっていた事の意味は、最近になっていくつか研修を経てから、レポートを書いて誰かに伝えるという出来事を経験し、自分がまだまだ未熟である事を痛感している次第です。

　個々がもつストレングスに関しては特に思うところがあり、誰しもが生まれてから必ずあるものだと気付かされました。何かができるとか、できないとかだけではなく、両親の愛情だとか安心できる家があるとか当たり前の事だと思っていた事をストレングスとして焦点を置く事も気付きの一つなのだと感じました。